

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300795		
法人名	社会福祉法人 伊勢湾福祉会		
事業所名	グループホーム 白子マリン		
所在地	鈴鹿市南若松町字南新田2番1号		
自己評価作成日	評価結果市町提出日	平成29年2月24日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JievosvoCd=2470300795-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JievosvoCd=2470300795-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28年 11月 11日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

白子マリンの理念”和やかな和・助け合いの輪・ふれあいの輪”のもとグループホーム内、入居者・職員共に助けられたり助けたりと和やかに過ごしています。地域の方にも温かく交流させていただいています。リビングから見渡せる海の景色はとても素晴らしいです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人伊勢マリンホーム本部の広い敷地内の一角に、真新しい建物の2階に事業所がある。調査当日に案内された居間の窓越しから伊勢湾が一望できる光景は、まさにリッチなシー・サイドのリゾートホテルを思わせる素晴らしい環境の事業所である。利用者の平均年齢が88.9歳を超え、身体的・精神的に少しずつ低下がみられるなか、職員皆で考えた『和やかな和・助け合いの輪・ふれあいの輪』の理念を念頭に、特に地域とのふれあいの輪を大切にしながら、職員からは笑顔は利用者からの贈り物ですと言われるように、いつも笑顔とやさしい声掛けで家族と同様に利用者の能力に応じ、心のこもった支援がされている。家族の評判どおり、全ての利用者の表情が豊かで、家庭的な環境の下で安心して暮らしている様子が伺える。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	白子マリンの理念を事業所入口に掲げ、職員会議では理念の再確認を行い常に念頭において実践している。	職員皆で考えた理念は、家庭的で地域とのふれあいの輪を最も大切にし、常に笑顔のある、心豊かに、利用者のペースによる暮らしが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入して季節の行事に参加している。時々、散歩や買い物などを通じて地域と交流している。また鈴鹿いきいきボランティアの方が来所され利用者との会話やレクリエーション等交流している。	地域交流については、自治会長・民生児童委員等の支援・協力で、地域の地藏盆とカラオケ大会に参加し利用者もステージで歌を披露している。また、マリンホームの駐車場で獅子舞見学、お話しえくぼや折紙さん等多くのボランティアが訪れ、地域交流が日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地藏盆のカラオケ代会に利用者が元気に参加する様子を地域住民の方が見られ、認知症の方が施設で楽しく生活されている事をご理解いただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、地域の民生委員・自治会長・地域包括支援センター・家族代表・利用者そして職員が参加して生活の現状や取り組み等を伝え今後のサービスや生活の質向上に繋がるように取り組んでいる。	会議は年6回奇数月の水曜日に開催し、事業所の近況を詳細報告した後、全ての参加者から有意義な意見が出されている。自治会長から津波に対する備えや地域のイベントの案内とお誘い、民生委員から女性の会の見学についての意見等が出され実践に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町担当者とは毎月の実績報告を届ける際や疑問があれば電話等で連絡を取り、協力をいただいている。又介護相談員が毎月来所されご意見をいただいている。	事業所の1階にある地域包括支援センターをとほ運営推進会議での情報交換や必要時に連携を取っている。また市担当者とは折に触れ報告や相談を行っている。毎月、介護相談員からも意見を聞いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月開催される身体拘束廃止委員会に参加し、事業所内で伝達しており、緊急性・切迫性・代替性がない限り身体拘束廃止に取り組んでいる。	毎月開催の法人本部の身体拘束廃止委員会に事業所も参加し、会議の内容は持ち帰り職員会議等で伝達している。持ち帰った事項については全職員にアンケート方式で取り纏めし、法人本部へ提出している。現状は特にスピーチロックについて話し合い実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修で虐待について勉強会をしており、日頃虐待に該当している事柄はないか、職員同士確認し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で勉強会を行い、必要があれば活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は利用者・家族などに事業所のサービスや理念などを説明し納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や随時の面会に来訪された時に、ご意見をいただいている。また全家族向けのアンケートを実施して入浴等の要望を聞き取り運営に生かしている。	日常的には面会時、2ヶ月毎に開催の家族会と運営推進会議で利用者の暮らしの様子を報告し、意見や要望を聴いているが、利用者・家族とも意見や要望はない事を踏まえ、家族にアンケートを実施する等何でも言ってもらえる関係づくりに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例の職員会議を開催し職員の意見を聞き取っている。また随時、課題があれば個別に意見を聞き運営に生かしている。	管理者は常にケアの場において、職員とのコミュニケーションを大切にし、ケアの場やミーティング、職員会議で意見やアイデアを聴いている。レクリエーション等の多くは職員の提案で、利用者の好みに居間のテーブルや座る場所を変える等意見を活かし実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望勤務状況に応じるよう努めているが、偏りのある業務配分のシフトと入居者が重度化してきている環境の中で介護の仕事にやりがいを感じてもらえるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会を積極的に活用している・内部研修においても毎月多岐に渡る内容について学習会を行い、参考書籍なども取り揃えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者が開催する介護職員の研修会に参加し交流を深めサービスの質を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は本人とよく話し合いを行い気持ちを聞き取り、表情や態度から本人の思いを汲み取り安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時にはこれまでの生活の中で困った事や今後の要望等を家族より聞き信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時、本人・家族が今、現在、何を必要とされているか面接を通し把握して総合的に対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力が発揮できるよう洗濯物たたみ等できる事を職員と一緒にして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所の行事にはできる限り家族の参加を呼びかけ、家族の面会時には職員も会話の中に入り家族と共に本人に関わるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所の支援は難しいが大切にしてきた人との関係は途切れないよう贈り物のお礼や年賀状等の支援等を通じて行っている。	家族をはじめ馴染みの友が気軽に面会出来る雰囲気づくりに心掛け、家族等多くの方が面会に来ている。同敷地内の通所介護の利用者や地域の方とは日常的に交流があり、新しい馴染みの関係も出来ている。近くで馴染みのある江島神社に初詣に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やお誕生日会等できるだけ全員の利用者に参加を呼びかけ一緒に楽しい時間を持てるように関わっている。また利用者間でもめ事が起こりそうなときは職員が間に入り和やかな雰囲気になるよう誘導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、しばらくは相談に乗っていることはあったが、落ち着いた後はそのような相談はなくなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者記録を読み一人一人の思いや希望を把握して対応し、困難なことがあれば申し送りなどで検討するようにしている。	笑顔と優しい声掛けのケアにより、利用者とのコミュニケーションを大切にすることで、日々の会話やその日の体調、表情・しぐさから、又、家族の意見を基に、把握した事は24時間シート、職員間で確認する連絡ノートで共有し、利用者個々の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のお話をよく聞き、これまでの生活史や暮らし方を知ることにより、言葉にできない気持ちに寄り添えるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクリエーションに参加したり居室での様子等、利用者の状態を細かく観察し変化する心身状態や思いを把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや気づきの意見を全職員が提出検討し、本人・家族とも話し合いを行い介護計画を作成している。	日々職員の気づきを基に、介護計画のモニタリング及び課題提出表を作成し、毎月のサービス担当者会議等で家族と共に話し合い、定期的には概ね6ヶ月毎に見直している。利用者の状態に変化が生じればその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケースファイルに日々の様子を記入しており、気づきや工夫などは申し送りノートやミニカンファレンスを随時行い、職員間で情報共有を行い実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化に伴って生じるニーズに対応する為に介護保険サービスだけでなく利用できるサービスの紹介を行い利用して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りやイベントに機会を見つけて出かけている。地元の地蔵盆のカラオケ大会に出場し祭りを楽しんでいただいた方がいる。また鈴鹿市いきいきボランティアの方が来訪され交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医及び利用者個別の従来のかかりつけ医等利用者の希望で受診され、必要があれば医師と連携を取りながら通院支援等も行っている。	利用者・家族希望の従来のかかりつけ医と事業所の協力医で受診している。従来のかかりつけ医の受診は原則家族であるが、家族が行けない時には事業所が対応している。事業所の協力医は隔週毎の往診、24時間対応が可能であり緊急時等の連携が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師は常駐していないが、看護の必要な利用者については法人本部の看護師の支援で処置や指導を受け介護にあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合、現在の状態・予後等を病院関係者と情報交換を行い、退院や今後に向けての方向性等を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状況が大きく変わりつつあり、重度化の様相を呈している。また家族様も住み馴れた環境での生活を望まれる傾向にある。事業所のできる介護の内容をご理解いただき家族・医師・職員で話し合い終末期も含めた方針を共有している。	家族には利用契約時に、事業所として重度化や終末期の支援できる内容を説明している。利用者が終末期の状態になった時に、医師の判断の基、家族が終末期ケアの希望があれば、『終末期の対応についての同意書』を徴取し、事業所は終末期の支援をする方針であり、職員も管理者と連携し支援をする考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の状態を常に把握し、急変時や事故発生時にはマニュアルに沿って行動できるよう職員会議などで話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所ではマニュアルを作成し利用者の安全を確保するための方策など運営推進委員会・家族会でも議題に上げ話し合っている。また利用者個別の防災頭巾を作りいつも枕元に置き活用できるよう工夫している。	災害時の当面の備蓄、利用者の防災頭巾は備えられている。また、年2回、同敷地内の併設事業所・施設との合同訓練が行われているが、事業所独自の夜間等を想定した災害時『大地震における津波等』の備えは今後の課題となっている。	地震で発生する津波等は、他の協力が得られないと想定し、事業所独自で出来ることを考え、日々職員個々の災害時における役割を明確にし、災害時の初期動作が的確に出来る様に、定期的な訓練(机上訓練含む)を実施される事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し優しく注意して言葉かけをするよう努めている。また排泄・入浴等プライバシー保護に留意している。	何事も本人本位での暮らしが出来る様に支援している。排泄時や入浴時、居室への出入りには羞恥心、プライバシーを損なわないように接し、言葉掛けでは笑顔で優しい口調となるようなケアに心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや行事など参加を促す際、わかりやすくゆっくりとジェスチャーも交え、自己決定して頂くように関わっている。また自己決定できない方には感じている気持ちを汲み取り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いつもすべてのの方の希望に添う事は難しいが、なるべく一人一人の個々のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容でカットしてもらったり、家族さんがされたりしている。口腔ケアや髪を梳かして好みのヘアピンで身づくろいをする等されており、自身で、できない方は職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	口腔体操の後、季節のメニューを紹介し、音楽を流している。昼食は職員も利用者と共に食事をして楽しい雰囲気作りに努めている。	朝食以外の食事は隣接の施設に委託し、管理栄養士の献立・調理で栄養バランスの取れた食事となっている。毎月開催の給食会議に利用者の好み要望出来る様になっている。昼食は職員と一緒に楽しい食事タイムとなっている。時々お好みの外食等に出かける支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の体調を把握してその方に合ったスプーンやストローを使用している。栄養や水分は24時間シートに記入して適切な内容が確保できるよう取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを誘導し見守りを行っている。介助の必要な方はその方に合った対応を行い、義歯は夜間ポリデント消毒を行い管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに添って誘導し、様子観察を行い、極カトイレでの排泄を勧めている。	寝たきり状態の利用者を除き、排泄記録をベースに、日々の見守りで利用者個々の表情、しぐさから尿意のサインを察知し、タイミングを見て声掛けしトイレでの自立排泄が出来るよう支援している。夜間も定期的に声掛けしトイレで自立排泄が出来るよう心掛けしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分にとって頂き排泄チェック表をつけて観察している。毎身体操やエアロバイク等で体を動かし、必要時は腹部マッサージや下剤を服用し好みで、もずくスープを飲まれる方もあり便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日のうち入浴できる人数は限られているが、一人一人入浴のお誘いをしてゆっくり入浴を楽しんでいただくようにしている。中には拒否される方もあるが、日時を変えてお誘いしている。	平均週2回の入浴となっている。清潔感・感染症の予防もあり湯は一人ひとり入れ替えている。入浴介助はマン・ツー・マンで行い、利用者と職員の四方山話の良い機会となっている。又、利用者好みの入浴剤で楽しい入浴タイムとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のお部屋を心地よい状態に保ち安心して休んでいただき日中は好みの場所で過ごされている。また利用者の健康状態を把握し、休息の必要な方については配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬状況を把握し、状態の変化があれば主治医や家族に報告・相談を行い、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝、コーヒーや紅茶の提供を行い、どうすれば喜んで張り合いのある生活をしていただけたかと職員は常に考え行動している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人一人の希望に添った日常的な外出支援は難しいが、陽気の良い日の散歩や季節の外出行事・地域の祭りなどに出かけ楽しんでいただいている。	天気が良く陽気良ければ、事業所周辺の散歩や外気浴、近所で開かれる毎月1と6の日の朝市での買い物、同敷地内の施設利用者との交流、地域のイベントに参加、又、ドライブを兼ねての花見(桜、紅葉)等多くの外出支援が行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て小口現金は管理している。外出の際の商店での買い物や祭りのお賽銭等で利用者には使って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの贈答品のお礼や利用者が電話を希望される場合や、かかってきた時等、使用を支援している。また毎年、年賀状を出す支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には花や季節を感じる制作物を飾り、温度や湿度にも注意を払っている。また窓からは朝日や夕日・海が美しく見え、景色を楽しんで快適に暮らせる生活空間作りに努めている。	居間兼食堂は大変広くて天井は高く、窓越しからは漁船の往来が見え伊勢湾が一望できる光景は、シーサイドのリゾートホテルのベランダを思わせる素晴らしい環境にある。又、随所に花が飾られ季節を感じる工夫がされ、テレビの前には座り心地の良いソファが置かれる等、居心地良く過ごせるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは自然に座る場所が決まっているような所はあるが、その時々気分や雰囲気や孤独にならないよう、またなごやかに過ごせるよう職員が配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や身の回りの品・写真等を飾り、落ち着いた居心地良く過ごせる部屋作りを心掛けている。	クローゼットは事業所の備付であるが、自宅で使っていた利用者お好みのベッド、使い慣れた家具や衣服等が持ち込まれ、又、お気に入りの壁掛けや家族の写真がコンパクトに飾られてあり、それぞれが落ち着いた過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで壁面には手すりを設置し安全に移動できる環境になっている。ホール内は生活空間が見渡せ、できる事をお勧めし見守りを行っている。		